

豊明高が保護活動

豊明市沓掛町の豊明高校が、環境省の絶滅危惧種に指定されている食虫植物「ナガバノイシモチソウ」の保護活動に力を入れている。高校のすぐ近くに自生する保護地があり、定期的に草取りや観察会を行っている。二十六日には沓掛小学校と合同で観察会を開き、高校生が小学生にナガバノイシモチソウの生態などを解説した。

(坪井千隼)

ナガバノイシモチソウ 豊橋市の二カ所にしか残 からは熱帯起源のウツボカズ っていない。

ラ目で、高さ十〜二十 豊明高校は二〇〇九年 委員らが行っている保護

キ。花から甘酸っぱい匂いを出して昆虫をおびき寄せ、粘液で溶かして養分にする。特に赤い花は希少で、国内では豊明、

草取りで生育を手助け

沓掛小と合同で観察会も

した花を一緒に観察した。

参加した児童らは「花が虫を食べるなんてすごい」「こんな珍しい植物があるなんて」と目を輝かせていた。

豊明高三年、丸山大輝君(ハ)は「高校に入るまで、地域にこんな貴重な植物があることは知らなかった。いつまでも守っていききたい」と語った。



絶滅危惧種「ナガバノイシモチソウ」

① 粘液で黄色いチョウを捕らえるナガバノイシモチソウ 2010年8月撮影
② ナガバノイシモチソウを観察する豊明高生徒と沓掛小児童ら いずれも豊明市沓掛町の自生保護地で